

令和5年2月10日

南陽市議会議長 船山 利美 殿

真政会会長 片平 志朗

令和4年度会派先進地等調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動

条の規定により報告いたします。



項目	調査・研修内容
調査期日	令和5年2月2日(木)から3日(金)まで 1泊2日
調査場所	①神奈川県茅ヶ崎市議会 ②「ロボテラス」神奈川県藤沢市 ③「フードバンク」神奈川県平塚市
調査目的	茅ヶ崎市 ○「地域コミュニティ事業」について(茅ヶ崎市行政) 藤沢市 ○介護用ロボットについて「ロボテラス」見学(民間) 平塚市 ○食品ロスの活用について「フードバンク湘南」(民間)
調査概要	別紙のとおり
その他	

「地域コミュニティ事業」について(茅ヶ崎市)

茅ヶ崎市 説明者 総務部市民自治推進課 課長三浦悦子様・同忠隈 厚志様 ・同池亀美和様
議会事務局長角田直也様

1 茅ヶ崎市の概要

人口 243,951 人 面積 35,70km² 議員定数 28 名 財政規模 765 億 施行日昭和 22 年 10 月 1 日

神奈川県の中南部に位置し、湘南の別荘、保養地として栄えた。四季を通じて温暖な気候で住みやすい。また首都圏より 50km にあり、交通の利便性も良く東京、横浜のベッドタウンとして人口増加。

産業は形態は、第一次産業が 8 割り近く占めており、次いで第 2 次産業が 2 割り、農業関係の 1 次産業はごくわずかである。

2 調査目的

多様化する社会状況の中で、住民同士の関係が希薄化していると言われている。社会的な孤立による孤独死や人口減少による空家の増加による都市のスポンジ化など、地域や行政に課せられた課題は多い。地域コミュニティを再生し、住民どうしのつながりを密にし自治力を付けるにはどのようにしたら良いのか。

このことについて既に取り組んでおられる茅ヶ崎市の地域コミュニティ事業について研修し、本市においても寄与する。

3 調査概要

茅ヶ崎市の総務部市民自治推進課の 4 名より、まちづくり協議会及びコミュニティセンターについて説明を受ける。あらかじめ提出しておいた事前質問事項にそって、準備された資料により説明を受けた。

①コロナ禍の中でコミュニティの活性化に向けてどのように取り組まれているのか。

○「まちぢから協議会」を組織

まちぢから協議会とは、これまでは各自治会が地域の担い手となっていたが、自治会加入の低下、担い手不足、役員の高齢化が進み、ひとつの団体では対応することが難しくなっているため、各自治会を中心に地域内の様々な団体や個人(公募の市民)が参加協議し、力を合せて取り組む場として協議会を設立し

た。

まちぢから協議会のイメージ図

①(1)まちぢから協議会とは

☆これまでは自治会が地域の担い手となっていた

- ・ 高い加入率（地域での代表性が高い）
- ・ 防災、ゴミ問題、広報配布など地域に密着した取り組み
- ・ 夏祭り、運動会、どんど焼きなどを催して親睦を深める



加入率の低下 ・ 担い手の不足 ・ 役員の高齢化



ひとつの団体だけで対応することが難しくなっている

各団体が個々に
課題に対応する

さまざまな分野、世代の力を合わせて
一体となって取り組む必要がある

「地域の力」を発揮！

①(1)まちぢから協議会とは

各自治会を中心に地域内の様々な分野を担当する各種団体や
個人（公募の市民）が参加する地域全体の話し合いの場

参画メンバー

- ・ 自治会
- ・ 地区社会福祉協議会
- ・ 民生委員児童委員協議会
- ・ 青少年育成推進協議会
- ・ PTA、保護者会
- ・ 体育振興会
- ・ 防災リーダー ほか

※各地区の必要性に応じて
それぞれの地区が構成を検討

顔の見える関係づくり
団体相互の連携

地域の
人材発掘

地域ニーズの把握
情報の共有

各団体の悩みなどを
出し合い相談！

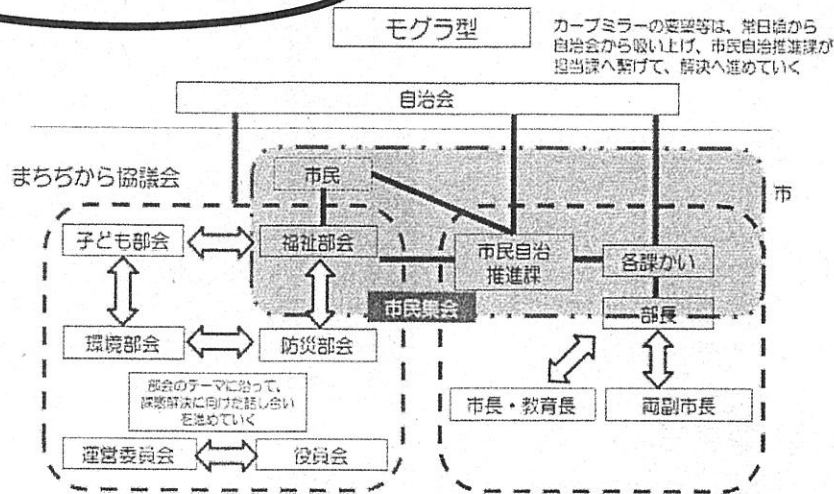


既存課題を団体の力で解決

茅ヶ崎市には自治会が135、地区自治会連合会13地区ある。自治会への加入率は73.08%と南陽市よりかなり低い。コロナ禍の集会は下図の「モグラ型」、「ドリーム型」の手法で使い分け実施している。

①(2) コロナ禍での活動について ～市民集会～

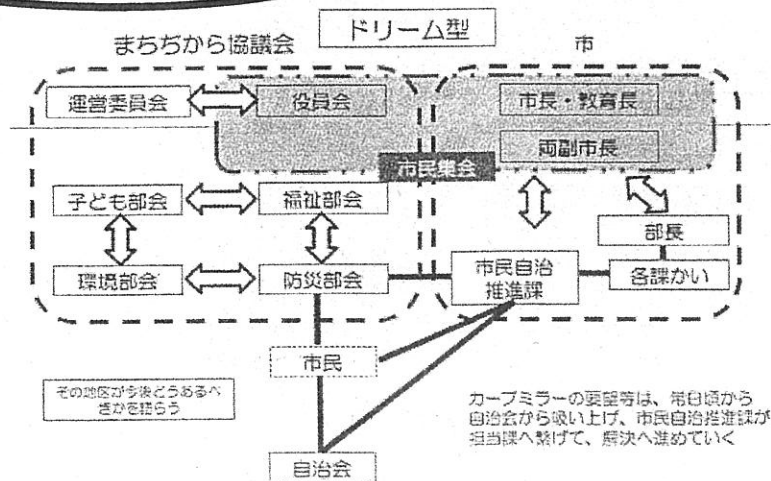
“モグラ型” 市民集会



18

①(2) コロナ禍での活動について ～市民集会～

“ドリーム型” 市民集会



19

○各地区に集会施設はどのような運営方式なのか

先ず、公民館と集会施設(コミュニティセンター・略してコミセンとも言う)の違いについて説明があった。

我々は、どちらも集会施設でその違いが解らなかつた。公民館施設は社会教育法に基づき設けられた社会教育施設。集会施設(コミセン)は、地域住民の自主的活動の推進を図る地域集会施設であることを学ぶ。

(1)公民館の運営は市職員や社会教育嘱託員による直営方式

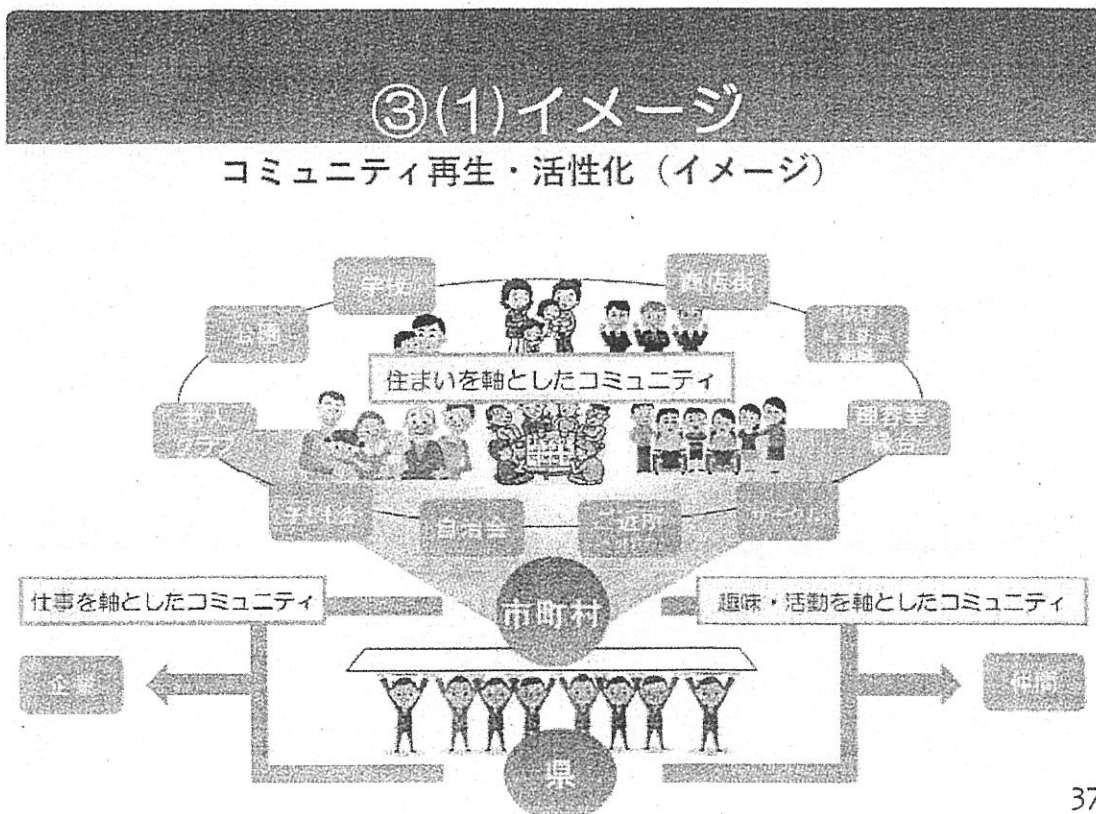
(2)集会施設(コミセン)の運営は指定管理者制度で運営

11館中、4館は管理運営委員会が指定管理を担い、7館は「まちぢから協議会」が指定管理を担う。

年間指定管理料は約1,000万～2,000万(期間5年間、5年間債務負担行為を容認)

○県が進めているコミュニティ再生・活性化事業との連携について

連携のイメージ図



概要

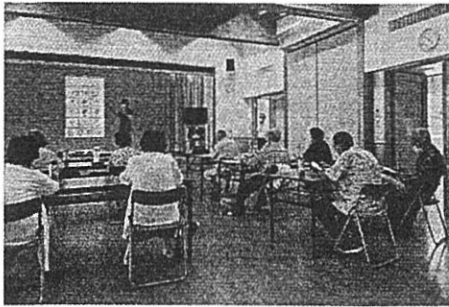
感染拡大を防ぎつつ、コミュニティ活動を進めるための様々な取り組みに協力いただける事業者を公募し、協力事業者と共に地域のコミュニティ活動を後押しする。

モデル事業の例

③(3) モデル事業

【茅ヶ崎市で実施したモデル事業】

<3密を回避したソフトバンクのスマホ教室>

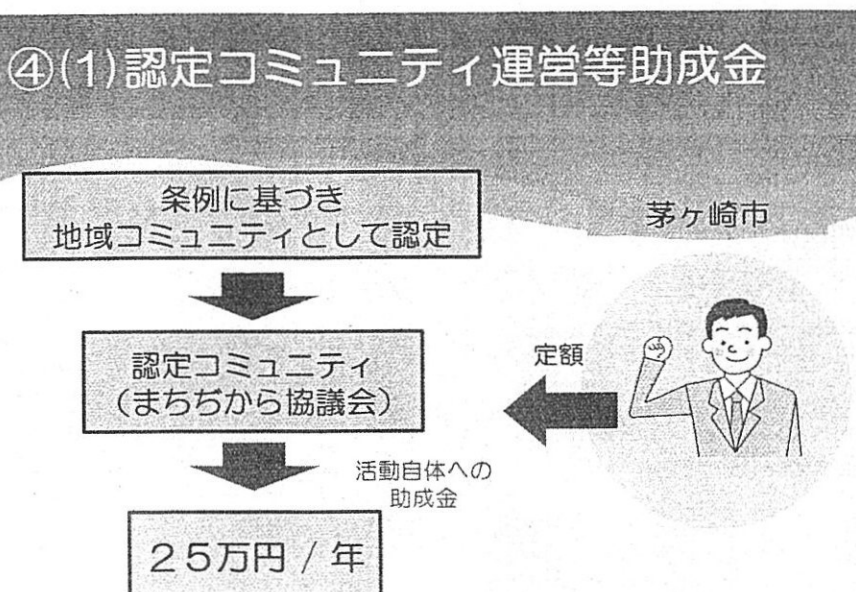


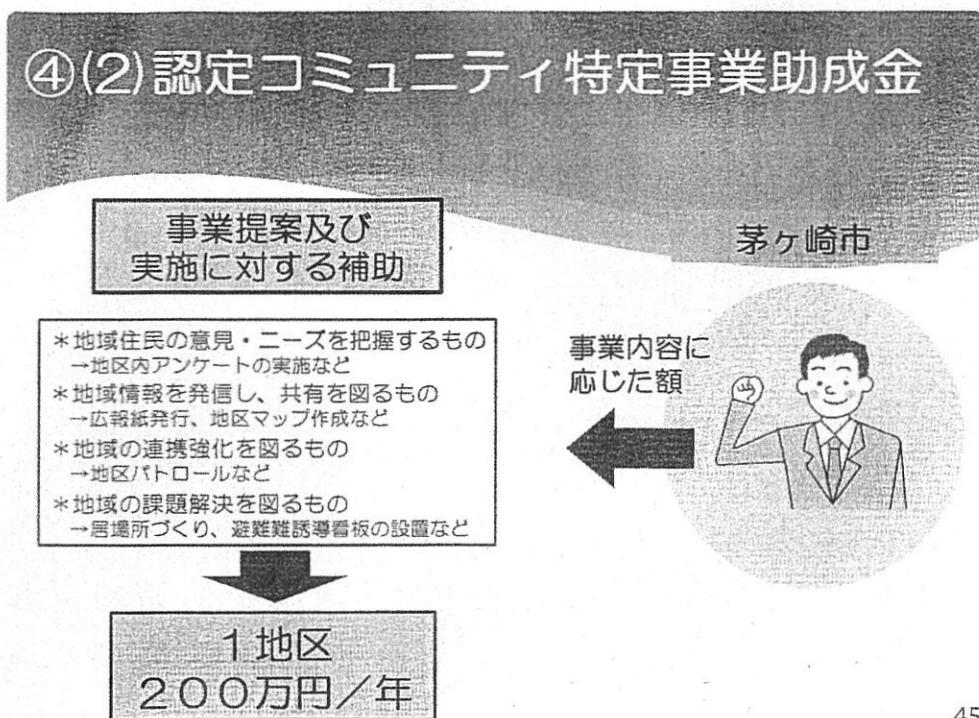
42

○地域コミュニティ事業に関する補助制度について

補助制度は大きく2つある。

(1) 認定コミュニティ運営等助成金





45

考 察

超高齢化と人口減少社会がもたらす様々な将来リスクを回避し、コミュニティに関わる施策を行政、市民、団体が協働で推進し、誰もが暮らしやすい地域を実現する課題は、どの自治体でも共通の課題である。

そして、市民ニーズが多様化する中、ややもすると形式的な平等性を重視するあまり画一的、硬直的な行政サービスには限界がある。茅ヶ崎市の地域コミュニティ事業に見られるように、多様な担い手による社会活動の展開が進む中、新たな行政サービスが求められている。まずは行政側が「まちづくり条例」などを制定して将来的なビジョンを示すことが求められている。

おりしも、今、宮内公民館建設に向けて進められているが、新たな施設はコミュニティ施設としての役割が大きい。これを本市のモデル事業として展開し、新たな地域コミュニティ事業の創出につながることを期待する。

「介護用ロボット」ロボテラスについて(藤沢市)

説明者 館員スタッフ2名

公益財団法人湘南産業振興財団が運営する。2014年に「生活支援ロボット」普及、啓発を目的として開設された展示ルームである。各企業が開発した介護用はじめ私達の生活を支えるための多種多様なロボットが展示されていた。操縦や着用して体験することが出来る。私達はマッスルスーツという重いものを持つたり、介護するときに使用するものを着用し体験した。20kgの重いものでも軽々と持つことができ、身体に負荷がかからないことを実感できた。介護職員がよく腰を痛めてしまうと言われているが、これを使用すれば相当、楽になるだろうと実感する。また、人とコミュニケーションがとることができたり、歌ったり、録画したりすることができる。ぬいぐるみのようなかわいいロボットであった。老人の孤立化防止や見守りに適する。また歩行が困難な方や高齢者の移動を支援する車いすやアシスト付の歩行補助具もあった。これは登坂では楽に、下り坂では自動ブレーキが掛り速度が適度に押えられる機能がついている。

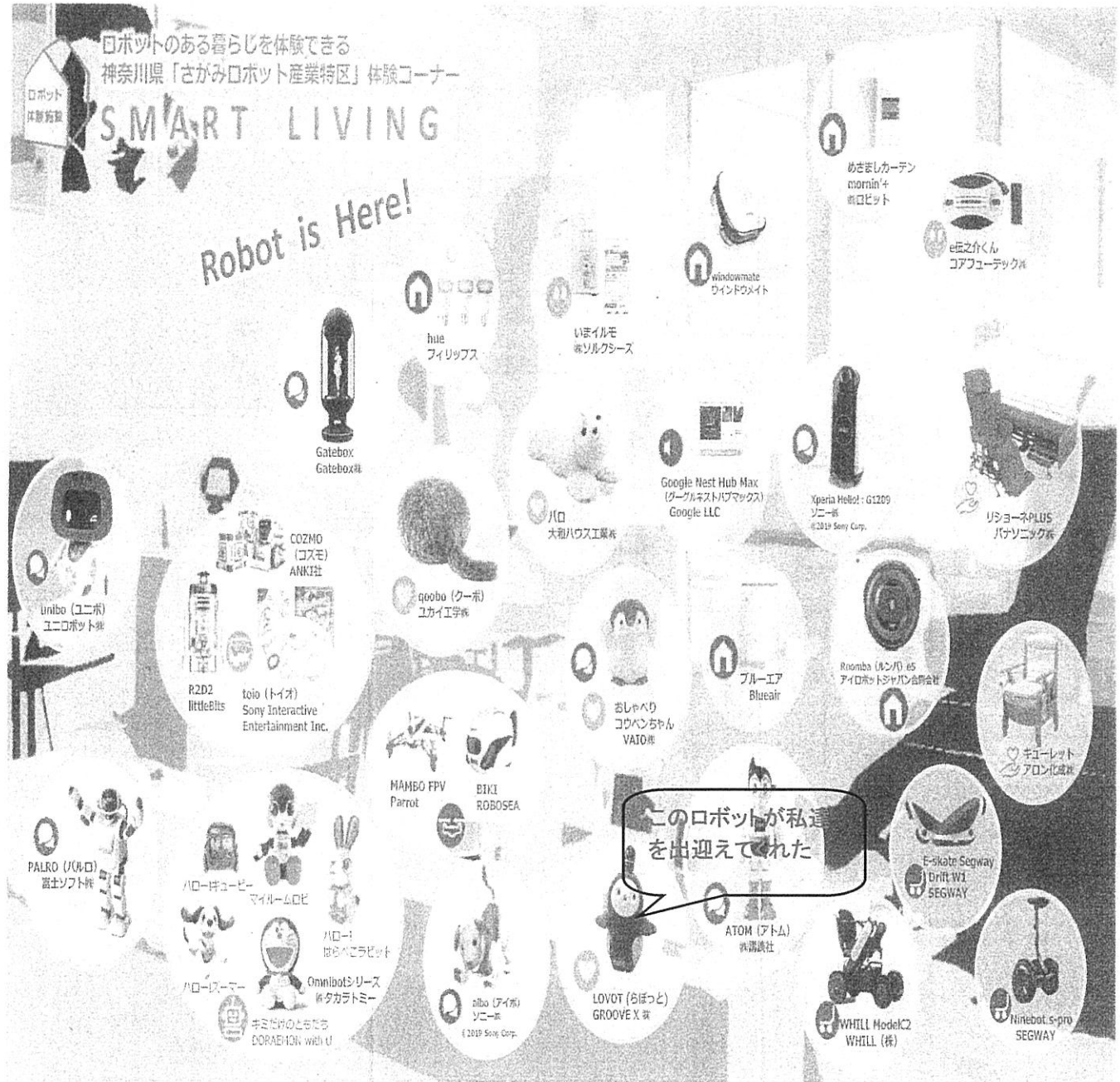
ロボットと言うと、私達の生活とはかけ離れ、現実離れしているものと思っていたが既に私達の日常生活を支援するところまで来ている事に、あらためて感心した。

事項に様々なロボットのリストを掲載する。

ロボットのある暮らしを体験できる
神奈川県「さがみロボット産業特区」体験コーナー

SMART LIVING

Robot is Here!



このロボットが私達
を出迎えてくれた

ROBO TERRACE ロボテラス
〒251-0041
神奈川県横浜市神奈川区2-2-1アイクロス湘南3F
TEL.0466-52-5622 <http://roboterrace.jp>

開館時間 | 10:00~17:00
定休日 | 日曜・祝日・月曜
運営 | 公益財団法人湘南産業振興財団

- コミュニケーションショー
- ワークショップ
- 見学
- Toy
- モディファイ
- ライフサポート
- 交流
- スマートスピーカー
- 知育/プログラミング
- ドローン

2022.11

ROBOT MAP ROBO TERRACE

マッスルスーツ
GS-ARM 株式会社
マッスルスーツEvery 株式会社
TASK AR 2.0 (株)タイド
TASK AR 3.0 (株)タイド
J-PAS flexity (株)ジェイテクト

motion learning system
TANO (タノ) 株式会社TANOTECH
CogEvo (コグエボ) 株式会社トータルブレインケア

SMART LIVING
ロボットリストは裏面

このマッスルスーツを着用して20kgのおもりを持ち上げた

ロボットスーツHALO 遠タイプ CYBERDYNE 株式会社
COGY (コジー) 株式会社
Sunet (スネット) 株式会社
作業支援用
介護支援用
リトルキーンパス 株式会社幸和製作所
RT.2 RT.ワークス株
rakusaka RT.ワークス株
リトルターン 電動アシスト付アロン化成株
RT.1 RT.ワークス株
ブリギギ「ラギー」 株式会社クラモト

ロボット操縦体験コーナー
BXR(ボクサー) 芝浦工業大学

educational
toio (トイオ) Sony Interactive Entertainment Inc.
KUMITA (クミータ) 株式会社KUMON
宮本真数教室の動くロジカルパズル 光の反射パズル 遊をつくる
はじめてのプログラミングカー 視学研ステイフル
宮本真数教室の動くロジカルパズル 遊をつくる
ニューブロックプログラミング 視学研ステイフル

nursing care
パワーアシストハン 株式会社エルイービー
VayyarHome Vayyar Imaging Ltd.
まもるへの (株)ZIP CARE
ロボヘルパー SASUKE マッスル株
Neos+Care /ネオスクア ノーリフレーション株
シレット見守りセンサー キング通信工業株
みまもりへん テクノホライゾン株
アリアムス 株式会社オシロパー
ポータブルボータくん3号 (株)アム

MUSI (ミュージオ) AKA株
Charpy (チャーピー) 株式会社CALメディア

healing
ちっとお話しダッキー 株式会社アグニテック
夢のプレミアム 株式会社トイズ
うたごころん 株式会社アグニテック
あでしてワンちゃん 株式会社アグニテック
なでなでねこちゃん トランドマスター株
こんにがるるちゃん

communication
ZUKKU(ズック) ハタプロ・ロボティクス株
OriHme (オリヒメ) オリイ研究所

alone
Power Ray Wizard PoweVision

考察

最期に10分ほど手塚治虫氏の2050年を見据えてつくられたアニメ映画を見せていただいたが、人間とロボットの共生社会がまさに、近未来に来ているかのように思った。

産業用ロボットは既に実用化され、様々な生産工場の中で活躍しているが、これからは私達生活の中で活躍する時代が来ることをあらためて実感する。

「食品ロスの活用」取組みについて(NPO フードバンク湘南・平塚市)

対応者 「NPO 法人フードバンク湘南」理事長大関めぐみ様 他スタッフ1名

我が国では年間 2.550 万トンの食品廃棄物が出されており、そのうちまだ食べられるのに廃棄される食品、いわゆる食品ロス(フードロス)は年間 612 万トンにもおよんでいる。一方で世界中では飢餓に苦しむ人は 8 億人存在していると言われている。日本国内でも子どもの貧困や、生活困窮者が増えており、貧困問題がクローズアップされている。

こうした中、食品ロスを活かそうとフードバンクの立ち上げが全国各地にみられるようになってきた。

「フードバンク湘南」は平成 29 年に立ち上げられ、食品ロスの削減を目的に、企業、農家、一般家庭よりの食品の寄贈を受け、ひとり親家庭や支援を必要とする方、また子ども食堂などへ食品を無償提供している団体である。

今までの実績

年 度	支援件数	寄贈量
2017 年	117 件	2.13t
2018 年	572 件	5.73t
2019 年	981 件	8.37t
2020 年	2072 件	23.5t
2021 年	2360 件	35.0t

経年ごとに、支援件数、寄贈数量が着実に増えているのが分かる。現在のスタッフ 24 名が活動している。

活動の内容は大きに分けて3つある

①フードドライブ(食品を集める活動)

市役所や場所をきめて、食品を持参してもらう。

②食品整理保管と支援

食品を消費期限ごとに分け保管する。また食品が誰からもらって、誰にやったのか分かるようにバーコードを付けて追跡することができる。

配布先 ・登録されているひとり親家庭・市役所、社会福祉協議会からの依頼・児童福祉室、子ども食堂

である。(基本的に送料がかからないように取りに来てもらっている)

③配布活動

場所を設定しての無料配布。平塚市社会福祉会館で配布(不定期、要予約制)

東海大学湘南キャンパスでの配布活動

④その他 募金、協力企業の募集活動

賛助会員は個人一口1,000円以上 法人は一口10,000円以上となっている。協力企業、ボランティア募集はHPで常時受付。

考 察

フードバンクは貧困問題と食品ロスの問題は別々に存在しているわけではなく、もったいないと言う心、環境良くしたい気持ちや助け合いの精神等々が相互に絡み合い、結果的に良い方向に進展していくことになる。SDG2で言うならば「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「住み続けられるまちづくりを」等々に関係してくる。日本は超少子高齢化で人口減少が進んでいるが、世界的には現在の80億からやがて100億の人口になると予測されている。けっして今の豊かさが永遠に続く保証はないのである。限りある地球の資源は本来、皆で分かち合わなければならないものであるが、現実には富める者と貧困層とのギャブは大きい。フードバンクはそういう課題に向き合う一つでもある。

本市においても、もったいないや助け合いの精神が市民の間に浸透して、フードバンクが発展していく事を強く望むものである。そのため行政も労を惜しまず、支援していただきたい。